



第2回地域包括ケア推進会議 協議事項

日時：平成29年10月3日（火）18：30～

場所：文化センター 4階 大会議室2

資料構成

- 1 地域包括ケア（システム）とは
- 2 前回の主な意見
- 3 本人の選択と家族の心構え
- 4 すまいとすまい方
- 5 介護予防・生活支援
- 6 医療・看護・介護・リハビリ・
保健福祉





私たちが目指す姿

誰もが、住み慣れた地域や自らが望む場で暮らし続けることができる まちづくり・地域づくり

「誰もが」とは……

高齢者だけでなく、認知症になっても障がいのある方も、子育て世代も、子どもたちも、文字通り、「誰もが」です。

「まちづくり・地域づくり」とは……

保健医療福祉だけではなく、教育や経済分野など、様々な分野が関わるものです。

そのために、
「つながる」

共有
・
顔の見える
関係

地域で、在宅で暮らすを、あきらめない。
地域で、在宅で暮らす「限界点を高める」

いわきの包括ケアとは、
「つながる・いわき」ということです。

支える側と支えられる側の垣根を低くする。

本人や家族の目線から見る

「小さく生んで、大きく育てる」
(スモールスタート)という考え方、
「小さな取組みを、広めていく」
という考え方で進めます。

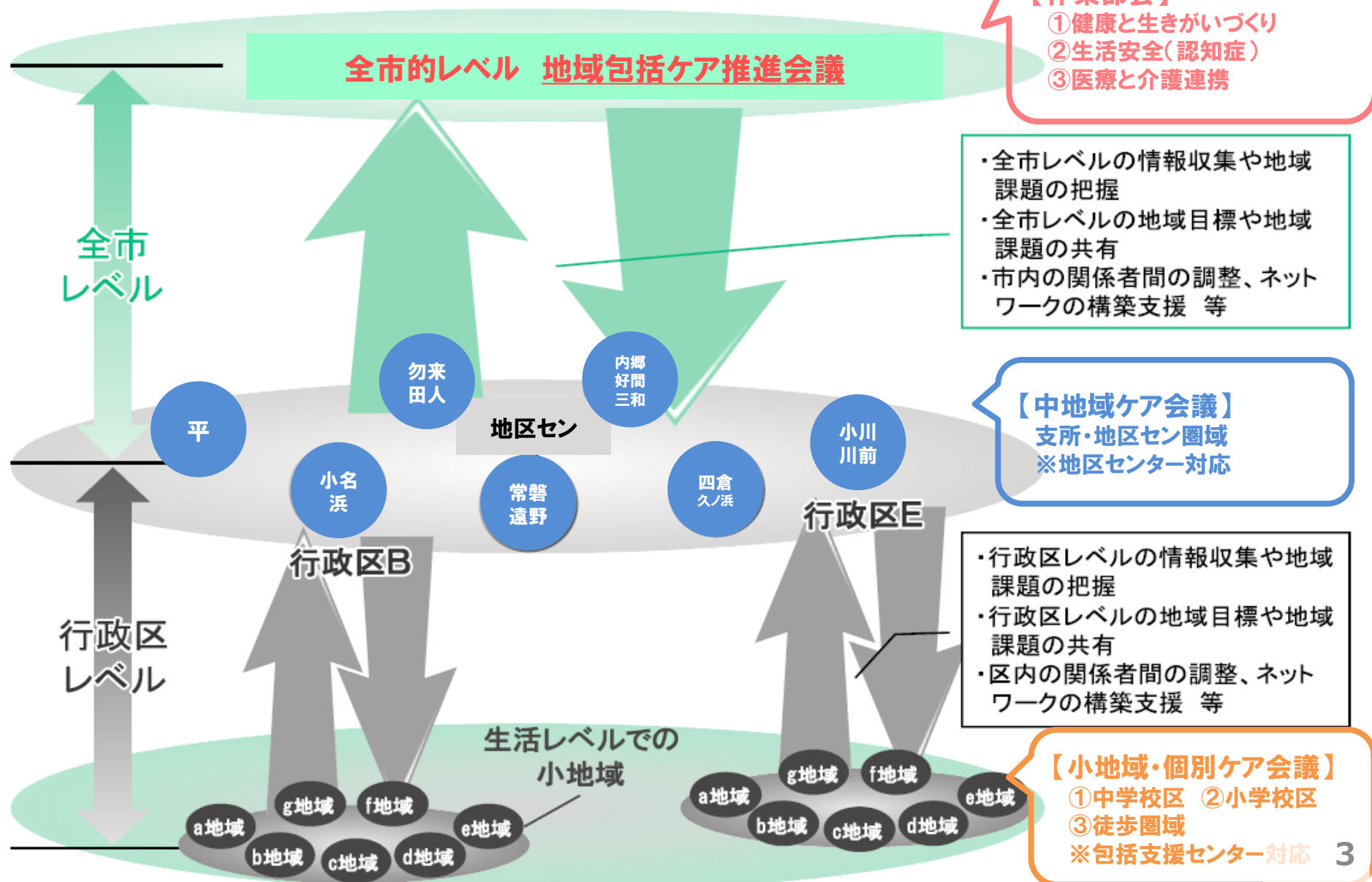
必要に応じて、適宜、
改良・見直していきます。

つながる
ために、

情報発信
・
見える化



図表 階層的なマネジメント体制の構築（イメージ）





平地区

第1回：9月7日開催
第2回：11月予定
第3回：1月予定
第4回：3月予定

＜主な検討・取組事項＞
○つどいの場の充実について
○社会資源の把握

小名浜地区

第1回：6月21日開催
第2回：9月6日開催
第3回：11月予定
第4回：2月予定

＜主な検討・取組事項＞
○地域課題検討
○徘徊模擬訓練
○認知症在宅講演会

勿来・田人地区

第1回：6月19日開催
第2回：9月29日開催
第3回：12月予定

＜主な検討・取組事項＞
○医療・介護・健康フェア
○移動手段検討
○GH空床情報管理

常磐・遠野地区

第1回：9月28日開催
第2回：2月予定

＜主な検討・取組事項＞
○常磐・遠野いきいき健康塾
○社会資源把握
○他職種相談会
○連携シート（おくすり手帳）

内郷・好間・三和

第1回：7月24日開催
第2回：11月予定
第3回：2月予定

＜主な検討・取組事項＞
○地域課題の整理と抽出
○部会による検討

四倉・久之浜大久

第1回：5月31日開催
第2回：1月予定

＜主な検討・取組事項＞
○オレンジカフェ
○よつくら塾
○医療・介護・防災フェスタ
○認知症声かけ訓練

小川・川前地区

第1回：9月26日開催
第2回：2月予定

＜主な検討・取組事項＞
○川前地区高齢者支援
ネットワーク連絡会
○小川寺子屋

参考資料 1

参考資料 2



高齢者生活安全部会

第1回：9月20日 開催
第2回：12月上旬 予定
第3回以降：検討中

<主な検討・取組事項>

- 認知症施策の総括・評価
- 認知症初期集中支援事業の課題と解決策の検討
- 認知症サポーターの活動づくり
- オレンジカフェ以和貴の内容の検討

健康と生きがいづくり部会

第1回：7月25日 開催
第2回：8月29日 開催
第3回：9月27日 開催
第4回：11月下旬 予定
第5回：1月下旬 予定

<主な検討・取組事項>

- 短期集中予防サービスの本格実施に向けた支援マネジメント会議の実施
- 介護予防事業（つどいの場、シルバーリハビリ体操）の評価指標、仕組みを検討する

医療と介護連携促進部会

第1回：10月25日 予定
第2回以降：検討中

<主な検討・取組事項>

- 在宅医療・介護連携の課題の抽出と対応策の検討
- 在宅医療・介護連携拠点の設置に向けた協議

住まいの部会（今年度新設）

設置準備会：9月13日 開催
第1回以降：検討中

<主な検討・取組事項>

- 現状の把握
- 課題の抽出
- 対応策の検討



前回(第1回)の主な発言要旨

- ① **若い世代への働きかけを考える必要がある。**
 - ・医療や介護について、家族の関与が希薄なことが、何よりも問題だ。
 - ・どのようにして若者を呼び戻すか、どのようにして若者を流出させないかを考える必要がある。
 - ・劇などを見てもらうことで、小学生や中学生にも、医療や介護について、考えてもらうきっかけを作れないものか。
- ② **障がい者や子どもに係る課題についても話し合う必要がある。**
 - ・住まいの問題については、障がい者と高齢者を一体的に捉える必要がある。
 - ・“包括”なので、子どもについても協議していくべき。
- ③ **地域包括ケアのパンフレットを作ってはどうか。**
 - ・まずは、地域包括ケアがどのようなものなのか、知ってもらう必要があるため、ページ数を多くせず、植木鉢の項目ごとに1ページくらいのパンフレット。



① 若い世代への働きかけを考える必要がある。

前回発言
ポイント①

いわき創生に向けた取組みについて

創生推進課より



- ② 障がい者や子どもに係る課題についても話し合う必要がある。

前回発言
ポイント②

医療的ケアが必要な子どもについて

NPO法人ままはーと より





普及啓発に向けての取組み全体像

①（直接）体験・学習

健康いきいき塾
小川寺子屋など

常磐・四倉・小川・
内郷で月1～2回開催

医師会出前講座
・
つどいの場への
専門職の派遣

健康フェア
・
劇

オレンジカフェ
・
注文を間違える
カフェ

地域づくり大会
(2/3 アリオス中劇場 開催予定)

②情報媒体

フェイスブック
(随時発信)

WEBサイト
(9月開始)

フリーペーパーなど
紙媒体
(11月創刊予定・今年度は
年2回発行予定)



ポータルサイト 9月18日 オープン！



「地域包括ケアシステム」は、地域の自主性や主体性にもとづき、
地域の特性に応じて作り上げていくことが必要です。
いままさに東京の特性を踏まえた、大都市東京にふさわしい
地域包括ケアシステムの変革のための取り組みが、郡内各地において展開されています。

いわき市地域包括ケア推進課

いわきの地域包括ケア
とりくみ

ひと
people

地域で活躍するアクティブな方々を紹介。



つどの寿 田人地区集会所
橋本たかしさん

この文はダミーです。この文はダミーです。
ここにはリード文を。この文はダミーです。
この文はダミーです。ここにはリード文を。

ひと つどの場 田人



つどの寿 田人地区集会所
橋本たかしさん

この文はダミーです。この文はダミーです。
ここにはリード文を。この文はダミーです。
この文はダミーです。ここにはリード文を。

ひと 小名浜



つどの寿 田人地区集会所
橋本たかしさん

この文はダミーです。この文はダミーです。
ここにはリード文を。この文はダミーです。
この文はダミーです。ここにはリード文を。

ひと 小名浜





紙媒体での発信

※現在、作成中（11月発行予定）

高齢者は65歳から、上は100歳まで。30歳以上の開きがあります。
WEBだけでは届きません。 紙でもつながる！



- メインターゲット
 - ・全高齢者 特に75歳以上
 - ・高齢者の家族、医療介護のプレーヤー
- 内容・狙い
 - ・ポータルサイトで、日々発信したもののの中から、選りすぐりの内容、高齢者の皆さんに知ってもらいたいものを、年に2回紙媒体でも発行。



③ 地域包括ケアのパンフレットを作ってはどうか。

<作成スケジュール>

前回発言
ポイント③

10～11月

たたき台
作成

12月

第3回会議
中間報告

2月

第4回会議
報告

3月

完成・印刷



住まい部会設置準備会

【日程】

平成29年9月13日（水）

【出席者】

地域福祉ネットワークいわき
社会福祉協議会
そよ風ネットいわき
行政関係者

【内容】

- 身元保証人について
- 身寄りのない方の住まいについて
- 低所得者の住まいについて
- 障がい者の住まいについて
- 住み替えについて
- 空き家について



【今後の予定】

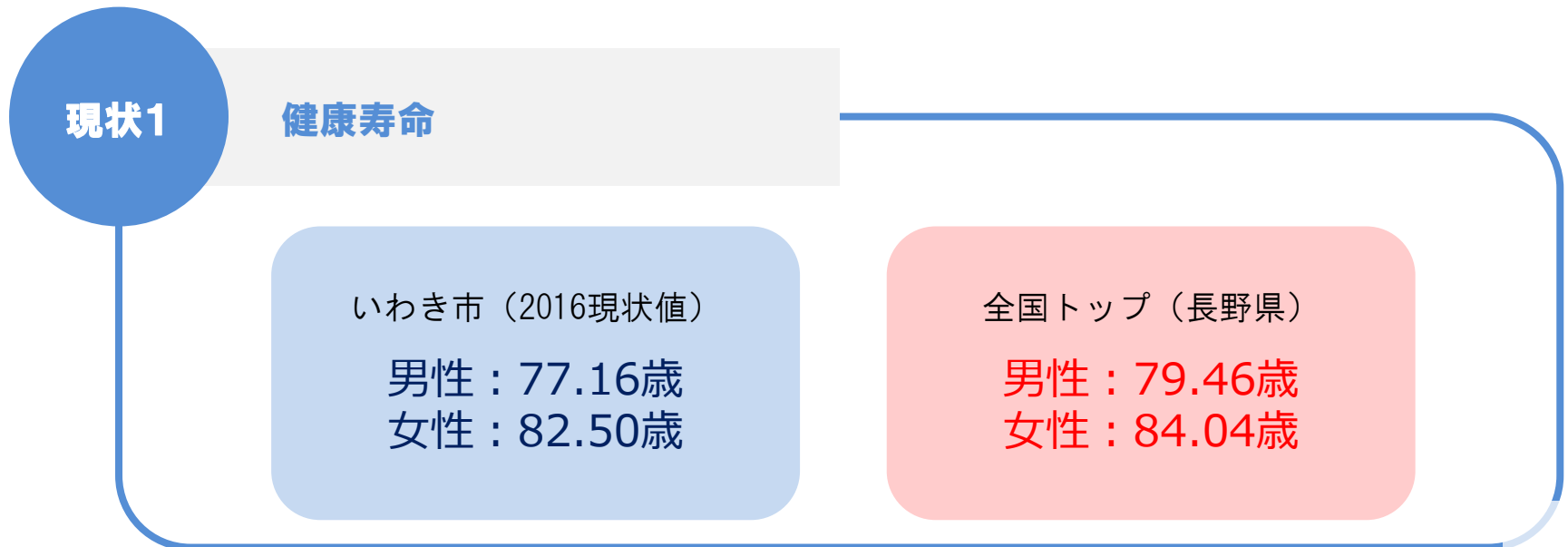
不動産関係者などに声をかけて、意見交換の場を設けることで、住まいに関する課題を整理し、対応策について検討していく



【主な発言要旨】

- ・複数の法人で保証協会のようなものを立ち上げるのはどうか。
- ・市営住宅は、現行の保証人条件は個人であるが、法人も保証人になれるよう、検討できないか。
- ・亡くなる前から亡くなった後のことを考える必要がある。
- ・高齢者のみならず、ひとり親世帯や貧困者、外国人など、福祉のエリアを飛び越えて、対応していく必要がある。
- ・中山間地だけではなく、市街地においても、住み替えを考える必要がある。
- ・体が動くうちから、低料金で住み替えられる仕組みを作っていく必要があるが、そのためには住まいに対する意識そのものを変えていかなければならない。
- ・後天的に障がいを負った方の住まいを探すのが難しい。
- ・墓がない場合、亡くなった後に、受け入れてくれる寺を探さなければならない。
- ・住所がないと、生活保護が却下されるので、ホームレスへの対応が難しい。
- ・いわき市においては、全戸数の14%、約7,800戸が空き屋であると見込んでおり、利活用できるものについては、検討していく。







つどいの場の現状について

	これまで (H29.3)	前回 (H29.7)	今回 (H29.10)
つどいの場の数	340ヶ所	360ヶ所	390ヶ所
参加実人数	6,000人	6,316人	6,546人

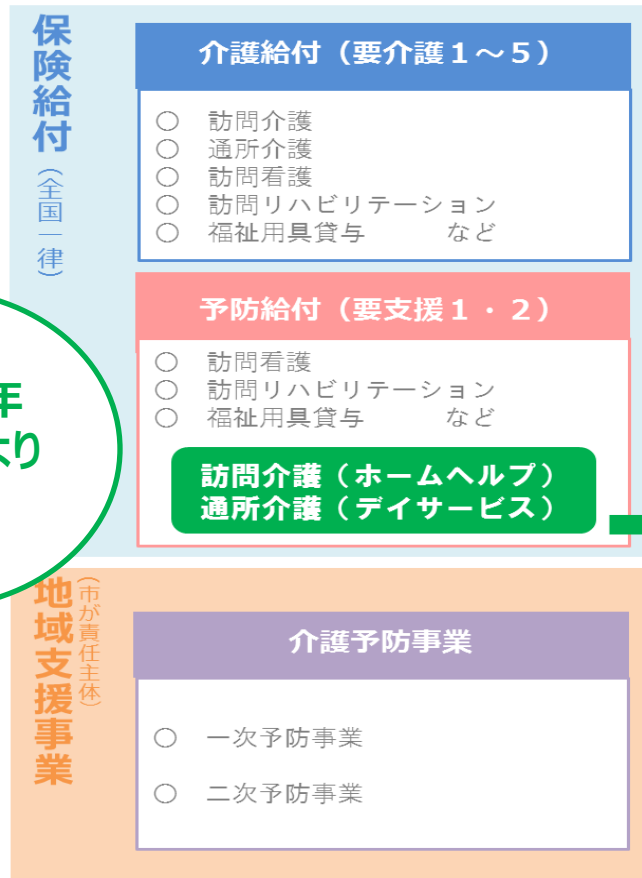
参考資料 6

※多様なプログラム活用団体**約167**団体中、医療介護専門職派遣：**83**件

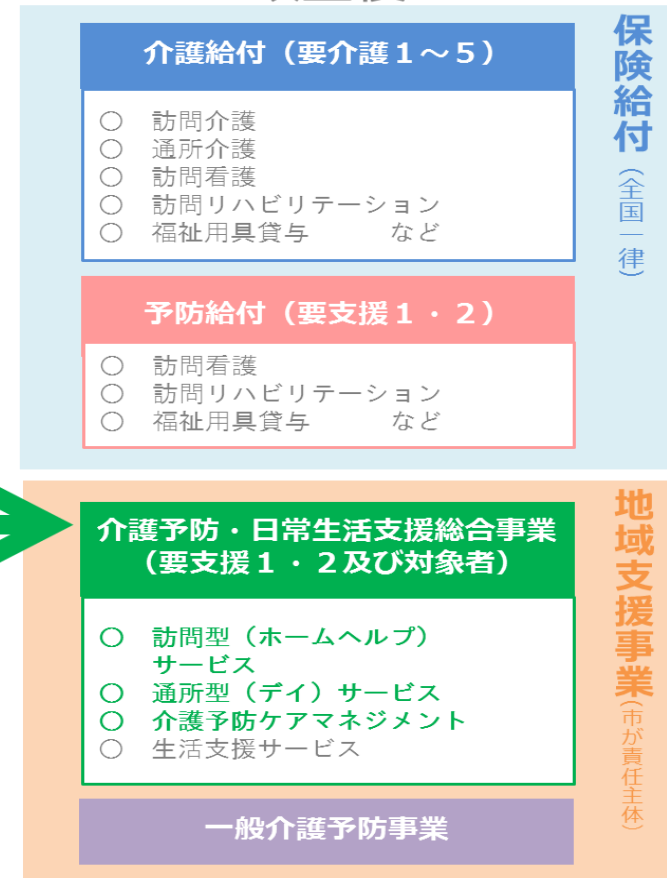


予防給付のうち「訪問介護」及び「通所介護」が、「介護予防・日常生活支援総合事業（総合事業）」として実施されることになった。

改正前



改正後



平成29年
1月1日より
実施

《総合事業の目的》

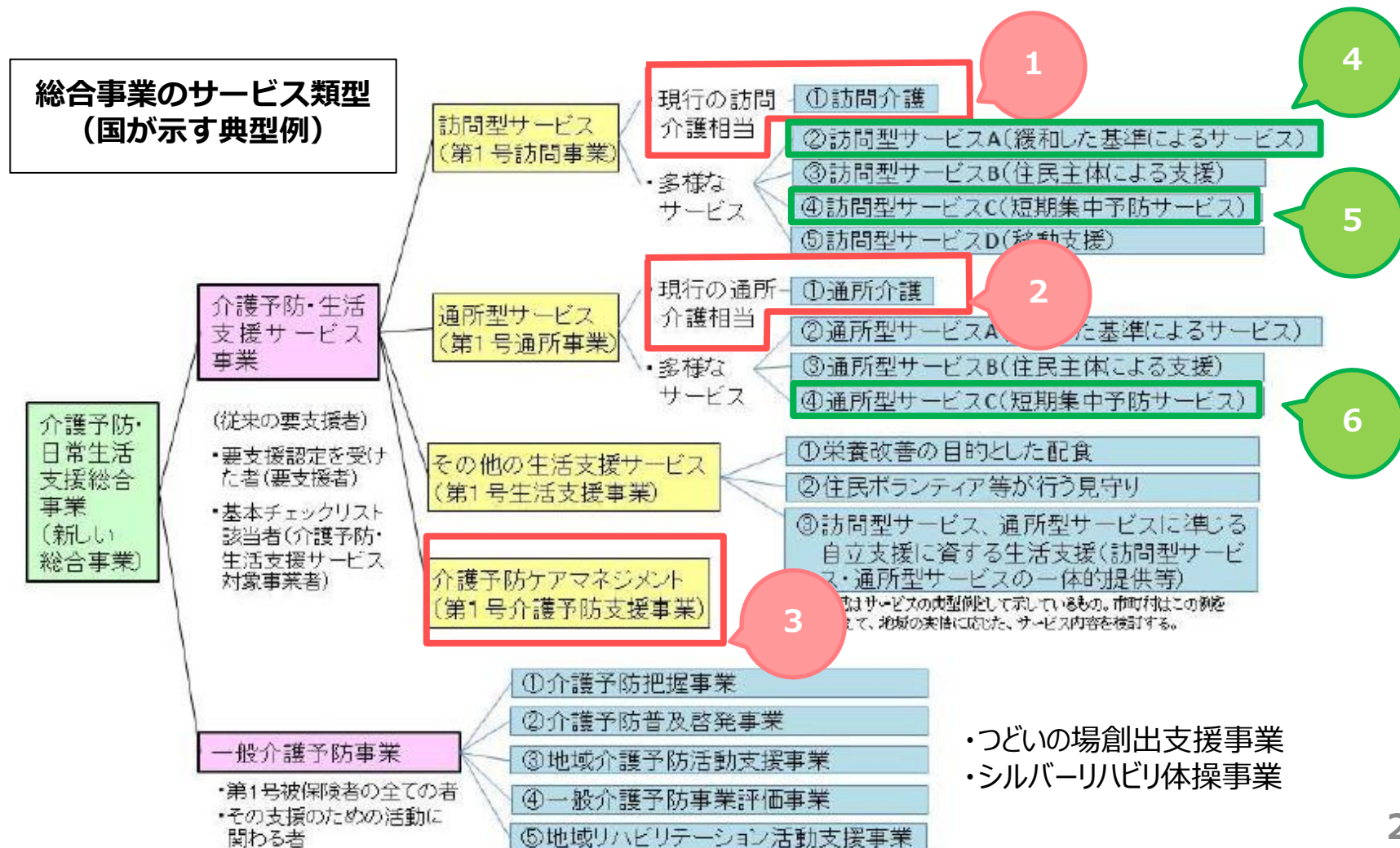
地域の実情に応じた介護予防の推進と生活支援体制を構築するため、

① 介護人材の底上げ ② サービスの多様化 などを図るもの



移行当初は、下記の ① ～ ③ のサービスのみで移行

新たに、下記の ④ ～ ⑥ のサービスを導入する予定





総合事業の主な4つの構成要素

現行相当

H29.1月導入済

これまで同様、
事業者が行うサービス

緩和基準サービス

H29.9月導入済

市の研修受講者が家事援助を
行うサービス

※サービスの多様化・人材確保

住民主体

地域の住民が主体となって
ごみ出し、掃除、調理、
買い物等を行うサービス

※サービスの多様化・人材確保

短期集中予防サービス

H29.10月導入

原則3カ月のトレーニングで
戻りたい状態像や生活へ
戻る予防サービス

※介護予防



9月

から

生活援助サービス

（訪問型サービスA：緩和した基準によるサービス）

4

現在の訪問介護員に加え、**市の開催する研修を修了した方**が掃除や洗濯等の家事支援を提供するサービスを導入

《目的》

- ① 介護人材のすそ野を広げる
- ② より専門的な支援を必要とする方へ専門職が集中できる体制づくり

《事業実績》

(1) 指定事業所数 18事業所（10月1日時点）

(2) 従事者養成研修

- ① 研修修了者数 15名（8月：10名、9月：5名）
- ② 10月開催日程 19日、24日、26日（3日間）

参考資料 7



10月

から

短期集中サービス

（訪問型サービスC、通所型サービスC）

5

6

専門職による、個別の機能改善プログラムを実施するサービスを導入
何のために、どんな訓練を行うのか 目的を持って個別の機能改善プログラムを実施

《目的》

- ① 利用者個々のニーズ（生活行為改善）に着目した機能訓練の実現
- ② 自分の課題への理解を深め、セルフケアの意識を高める。

《事業実績》

1 生活行為改善プログラム（通所型）

(1) 指定事業所数 1 事業所（10月 1 日時点）

(2) 課題

- ① ハード面の課題（新規事業を行うための敷地面積不足）が多い
- ② 専門職種の確保・調整に時間を要している

2 口腔機能・栄養改善プログラム（訪問型）

サービス提供者の確保のため、言語聴覚士会、歯科衛生士会、
栄養師会に派遣調整を依頼



介護予防マネジメント支援会議

10月から開催！

高齢者の生活行為の課題等を明らかにし、自立支援に資するケアプラン作成と支援を行うため、多職種からの専門的な助言を活かしたケアマネジメントを実施するもの。

アドバイザー職種

医師、薬剤師、OT、PT、ST、歯科衛生士、管理栄養士、地域包括支援センター

【目的】

自立支援・介護予防の観点を踏まえて、
「要支援者等の生活行為の課題の解決等、状態の改善に導き、自立を促すこと」
「高齢者のQOLの向上」を目指す。

【効果】

高齢者の生活の質の向上に加え、

- (1) 専門職としてのスキルアップ
- (2) ケアマネジメントやケアの質の向上
- (3) 参加者によるネットワークの構築



アドバイザー研修会 9月3日（日）開催

参加者 114名

医師 2名、薬剤師 16名、PT 15名、OT 12名、ST 4名、歯科衛生士 14名
栄養士 7名、ケアマネジャー 27名、地域包括支援センター 14名、行政 3名

デモ会議



グループワーク





介護予防ケアマネジメント支援会議事業所説明会

(1) 日 時

- | | | | |
|---|-------|------------|---------|
| ① | 10月2日 | 総合保健福祉センター | 18時30分～ |
| ② | 10月3日 | 小名浜公民館 | 14時～ |
| ③ | 10月4日 | 文化センター | 14時～ |
| ④ | 10月6日 | 勿来市民会館 | 14時～ |

(2) 対象事業所

- | | | |
|---|-------------|---------|
| ① | 居宅介護支援事業所 | 165 事業所 |
| ② | 介護予防訪問介護事業所 | 130 事業所 |
| ③ | 介護予防通所介護事業所 | 92 事業所 |



住民主体型（住民支え合い活動）

住民支え合い活動づくりモデル地区活動状況

地区	実施（予定）サービス	登録サポーター数
平 城山	買い物代行、電球交換、掃除など	34
平 鎌田	声かけ、買い物、電球交換など	9
小名浜 玉川町西区	安否確認、ごみ出し、買い物など	20
小名浜 永崎	見守り・声かけ、買い物代行、ごみ出しなど	16
勿来 南台	庭木の手入れ、草引き、窓拭きなど	27
田人 入旅人大字区	買い物代行、サロンの案内・送迎・運営、緊急連絡カードなど	29
常磐 下船尾	買い物代行、ごみ出し、窓拭き・電球交換など	32
遠野 上根本	定期訪問（声かけ）、庭先や墓周りの掃除、重い物の移動など	8
内郷 高坂9区	声かけ・傾聴訪問、つどいの場、意見箱など	14
好間 田代・沼平	個人宅サロンの運営など	8
三和 上市萱	個人宅サロンの運営、生活支援全般など	13
四倉 新町	庭木の手入れ・草引き、家電製品の組立て、サロン運営など	28
久之浜大久 西町1区	見守り・声かけ、ごみ出し、重い物の移動など	19
小川 塩田	移動サロン、草刈り・木の片付け、買い物代行など	26
川前 山下谷	見守り・声かけ、介護予防サロンなど	5

(平成29年3月31日現在)



住民主体型（住民支え合い活動）

第2層協議体開催状況

地区	日程
平	7/28
小名浜	7/28
勿来	7/21
田人	7/26
常磐	7/24
遠野	7/19
内郷	7/26
好間	7/21
三和	7/19
四倉	7/31
久之浜大久	7/28
小川	7/26
川前	7/28

【協議体において出された主な意見】

- 老人クラブの弱体化が著しい
- 活動の継続性を考えると有償ボランティアが必要
- 子どもを巻き込んだ展開が必要
- 買い物の支援のニーズは高いと思われる
- 区長と民生委員の連携が重要
- 地域資源の有効活用が必要
- 行事がなくなっている
- 隣組などの地域コミュニティの希薄化

【今後の予定】

- 現在取りまとめ中である地域ニーズ調査から見えてきた地域の現状や課題から、その対応策について検討を進めることで、地域ごとに必要な生活支援に取り組むグループの立上げや組織化を支援していくなど、新たな担い手の養成に努めながら、支え合い活動の必要性などについて周知を図る。

参考資料 8



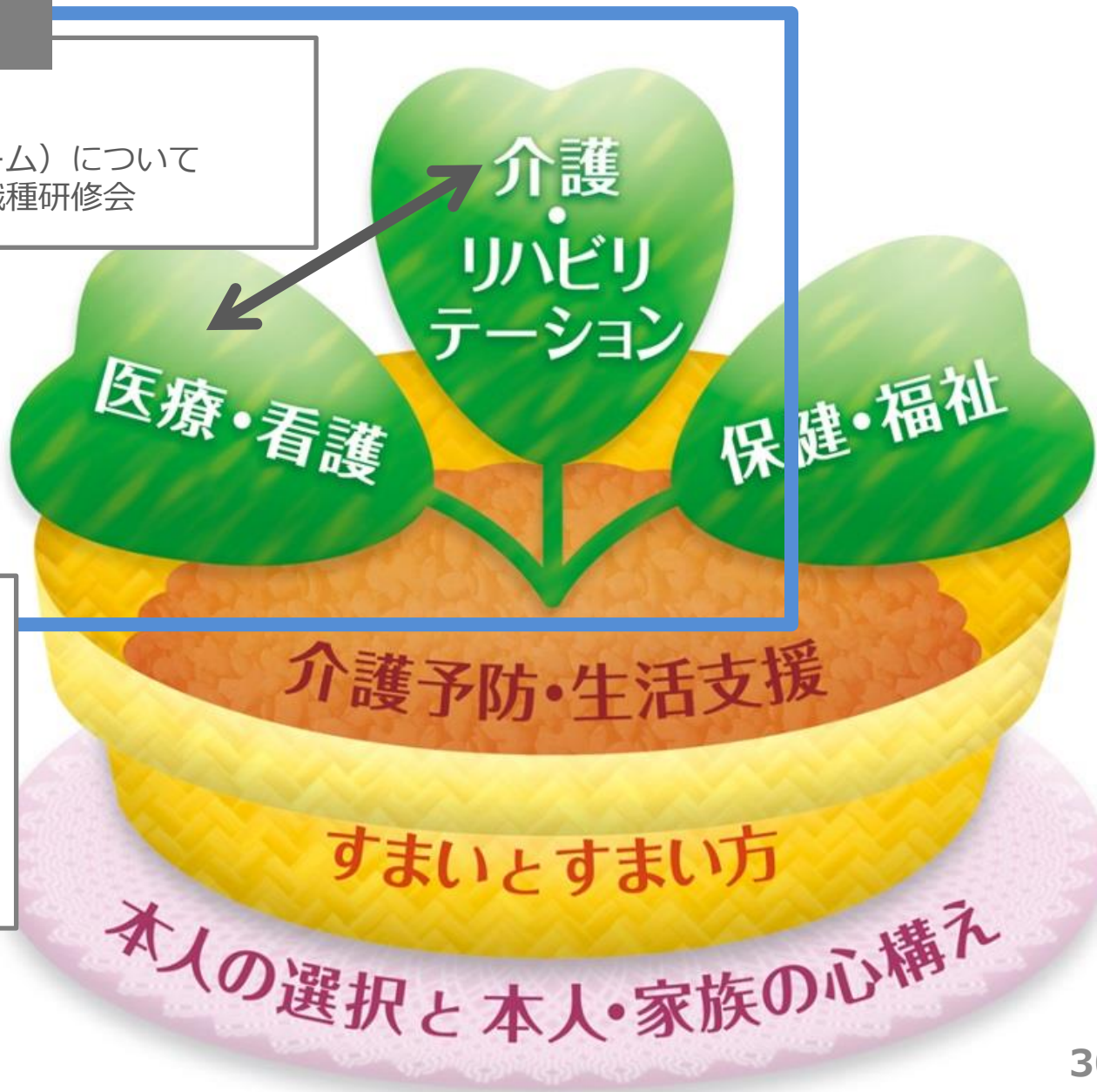
①医療と介護の連携

- ア) 退院調整ルール
- イ) 認知症（初期集中支援チーム）について
- ウ) 在宅医療推進のための多職種研修会

②医療の現状 と条例の制定

③医師（医療人材）の 確保と育成

- ア) 寄附講座
- イ) 奨学資金貸与
- ウ) 地域医療セミナー
- エ) クリニック承継
- オ) 医学部ゼミの合宿誘致

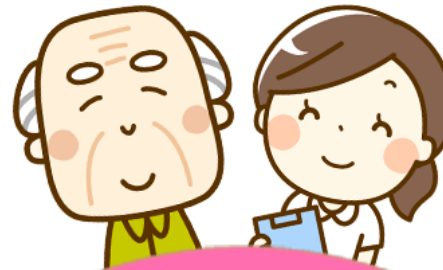




ときどき入院
ほぼ在宅



急性期病棟



地域包括ケア病棟



自宅

参考資料 9

退院時、病院→ケアマネ連絡の有無アンケートの結果

いわき市

ルール策定前
(H28. 8・9月)

ルール運用半年後

53.6% ⇒ **10月アンケート実施**

県中

ルール策定前
(H27. 5月)

ルール運用半年後
(H28. 8月)

70.9% ⇒ **76.4%**

認知症初期集中支援チームについて（厚生労働省資料より）

【目的】

認知症になっても本人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域のよい環境で暮らし続けられるために、認知症の人やその家族に早期に関わる「認知症初期集中支援チーム」を配置し、早期診断・早期対応に向けた支援体制を構築することを目的とする。

【認知症初期集中支援チームとは】

複数の専門職が家族の訴え等により認知症が疑われる人や認知症の人及びその家族を訪問し、アセスメント、家族支援などの初期の支援を包括的、集中的（おおむね6ヶ月）に行い、自立生活のサポートを行うチームをいう。

配置場所

地域包括支援センター等

診療所、病院
認知症疾患医療センター
市町村の本庁

認知症初期集中支援チームのメンバー



【対象者】

40歳以上で、在宅で生活しており、かつ認知症が疑われる人又は認知症の人で以下のいずれかの基準に該当する人とする。

◆医療サービス、介護サービスを受けていない人、または中断している人で以下のいずれかに該当する人

- (ア) 認知症疾患の臨床診断を受けていない人
- (イ) 継続的な医療サービスを受けていない人
- (ウ) 適切な介護保険サービスに結び付いていない人（エ） 診断されたが介護サービスが中断している人

◆医療サービス、介護サービスを受けているが認知症の行動・心理症状が顕著なため、対応に苦慮している



認知症初期集中支援チームの設置

平成28年6月6日設置

「チーム員の構成」

- ・ 医師（認知症専門医：認知症サポート医） 1名
- ・ 看護師 1名
- ・ 地域包括支援センター 4名（精神保健福祉士1名、保健師3名）

「実績 平成29年9月末現在」

チーム員会議：10回（毎月1回程度）

訪問支援回数：29回

支援件数：11件

支援終了件数：4件

※ 医療機関への受診・介護認定により
支援を終了した。





高齢者生活安全部会（認知症施策の検討部会）

【第1回会議】

- 1 日程
平成29年9月20日（水）
- 2 内容
 - (1) 全体像のあらましについて
 - (2) 昨年度の検討内容について
 - (3) 新オレンジプランの改訂について
 - (4) 今年度の検討内容について
 - (5) 検討事項
 - ① 認知症初期集中支援事業について
 - ② オレンジカフェ以和貴について
 - ③ 認知症に関する普及啓発について
 - ④ 認知症コーディネーター養成講座について
 - (6) 報告事項
 - ① 認知症サポーター養成講座について



【今年度の協議事項】

- 1 認知症初期集中支援事業について
- 2 オレンジカフェ以和貴について
- 3 認知症に関する普及啓発について
- 4 認知症コーディネーター養成研修について



いわき市の医療の現状について

(1) 人口10万人当たりの医師数

区分						(人)	(%)
	H18	H20	H22	H24	H26		割合
いわき市	167.9	165.2	160.4	162.1	172.1		73.7
福島県	176.1	183.2	182.6	178.7	188.8		80.8
全 国	206.3	212.9	219.0	226.5	233.6		100.0

※中核市43市中、39位



いわき市の医療の現状について

(2) 人口10万人当たりの病院勤務医師数

区分	(人)					(%)
	H18	H20	H22	H24	H26	割合
いわき市	91.8	85.9	82.7	81.5	88.3	57.6
福島県	108.4	112.0	112.6	110.7	118.8	77.4
全 国	131.8	136.5	141.3	147.7	153.4	100.0



医師確保に向けた主な取り組み

・寄附講座開設事業（継続）

市立総合磐城共立病院への医師派遣等につなげるため3講座を大学医学部に開設。

・共創型・地域医療寄附講座開設事業（新規）

市内の病院を運営する法人と市が連携して、医学部を有する大学に寄附講座の開設を図り、本市の医療の研究や診療等を促進することにより、医療提供体制の充実と市内病院への医師定着を図ることを目的として実施。

・病院医師修学資金貸与事業費補助（新規）

医学生に対し、自らの病院に勤務することを条件として、修学に必要な資金を貸与する修学資金貸与制度への補助。

・地域医療セミナー（継続）

将来の地域医療を担う人材の確保・育成のために、医大生を対象に本市の医療について学ぶ研修を開催。

・診療所承継に係る情報提供（新規）

「後継者不足の医院」を引き継ぐ形での開業についてrecruitからの提案

・山本ゼミの誘致（新規）



医師確保に向けた主な取組み①

地域医療セミナー

第1回：7月26～28日

参加学生数：12名

第2回：8月8～10日

参加学生数：15名

第3回：8月30日～9月1日

参加学生数：7名

第4回：9月26～28日

参加学生数：14名

<主な内容>

- ・ 病院見学
- ・ 訪問診療・訪問看護の同行見学
- ・ 医療従事者との情報交換
- ・ 地域住民との交流 など





医師確保に向けた主な取組み②

山本雄士ゼミ×いわき市

- ・開催時期 : 9月23～24日
- ・参加者数
山本ゼミ : 20名
いわき側 : 30名 (うち医師 : 13名)
- ・23日 : いわきFC見学・説明
共立病院見学・説明
薄磯～豊間地区 見学・説明
いわきの医師、病院関係者と懇親
- ・24日 : 山本先生の講演
ケースディスカッション
“クリーブランド病院の経営”

昼食 (栄養士による、手作り
郷土料理でおもてなし)

フリーディスカッション
“いわきの医師確保のために”





医師確保に向けた主な取組み② 山本雄士ゼミ×いわき市







次期市高齢者保健福祉計画策定の進捗状況 (市介護保険運営協議会の開催状況)

回次	開催日	計画策定に係る内容
第1回	平成29年 5月25日(木)	・アンケート調査の結果について(介護予防・日常生活圏域ニーズ調査、介護支援専門員調査) ・次期高齢者保健福祉計画の策定及び今後のスケジュールについて
第2回	7月19日(水)	・次期高齢者保健福祉計画の構成案について ・人口推計について ・「8つの取組みの視点」に基づく取組みの方向性(案)について
第3回	9月28日(木)	・介護認定率の現状について ・介護保険サービスの現状について ・在宅介護実態調査の集計結果に基づく分析・考察について ・サービス基盤整備の方向性について
第4回	11月29日(水)	・計画書素案について ⇒ 12月よりパブリックコメント実施
第5回	平成30年 2月8日(木)	・パブリックコメント結果報告 ・パブリックコメントを踏まえた個別案件の協議 ・計画案について ・保険料等報告 ・市長提言内容の整理



**いわきの地域包括ケアが、どこに、今
どれくらい進んでいるのかを把握する
ために、数値指標的なものを、
いくつか設定するかどうか、設定する
ならどのようなものを今年度協議していきたい。**

例①自宅死亡割合

②認定率の内訳分析と効果的アプローチ

③給付費

④つどいの場の数・参加者数

⑤医師の絶対数

⑥退院調整ルールの実施率 など

例えば





大目標

例えば

中目標

取組み

健康寿命

認定率

検診受診率

つどいの場

退院調整ルール

今後の
推進会議で
検討お願い
します。

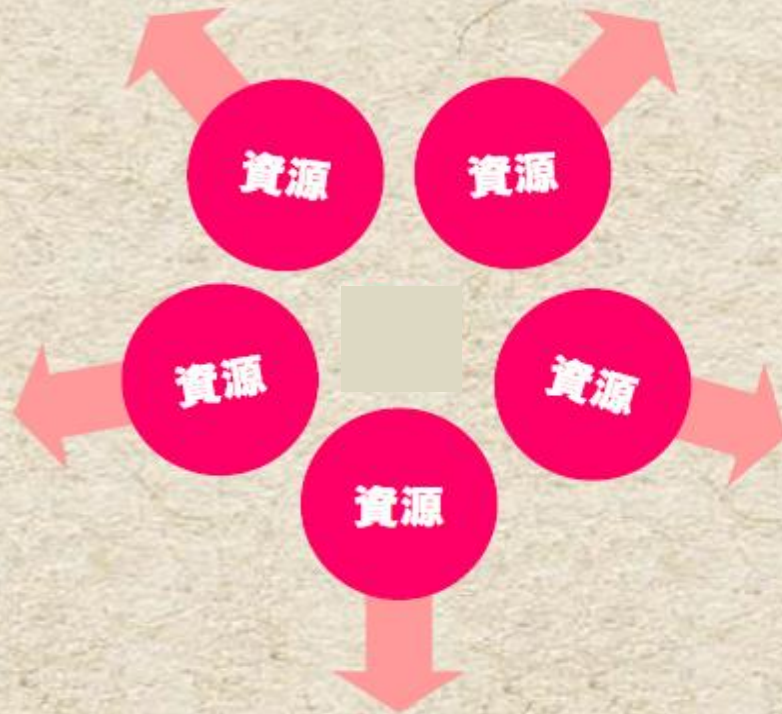
自宅での
死亡率

医師等の確保・育成



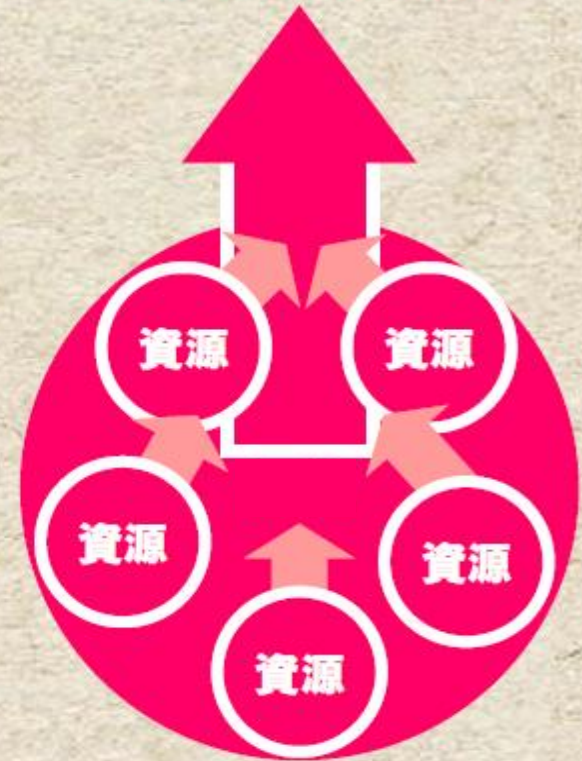
それぞれが取り組み、
それぞれが発信
でも、バラバラ

より大きな力に



【これまで】

それぞれが頑張ってる。



【これから】

方向性を合わせる
力を合わせる